

神奈川・五合榑遺跡 (仏法寺跡) ごんこうます ぶつぽうじ

- 1 所在地 神奈川県鎌倉市極楽寺一丁目
- 2 調査期間 二〇〇二年(平14) 六月～一〇月
- 3 発掘機関 鎌倉市教育委員会
- 4 調査担当者 福田 誠・原 廣志
- 5 遺跡の種類 城跡(寺院跡)
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(横須賀)

今回の発掘調査は、鎌倉七口(七切通し)の一つである極楽寺坂周辺の国指定史跡の申請に向けた資料を得るためのもので、A～D地区に分けて行なった。以下、それぞれの概要を述べる。

A地区 五合榑と呼ばれる地点で海拔約七二m、眼下に極楽寺坂にある成就院を見下ろし、遠方には鎌倉大仏を望むことができる地点である。多くの塚が存在

する。鎌倉攻めの激戦地であったと考えられ、元弘三年(一二三三)以降、墓地あるいは供養所となったものか。

B地区 五合榑の上、海拔約七五～八〇m、靈山山頂の北側の雛壇状の地形をなす場所である。この雛壇で多数の石塔類と常滑壺、かわらけ、火葬骨が出土した。周囲に石塔が散乱し塚が存在するとみられる。この場所もまた、A地区と同様に墓地あるいは供養所と考えられよう。

C地区 靈山山頂南側の海拔約八〇m、南北約二〇m東西約一五m程の平坦地である。塚は一昨年調査され、多くの石塔、遺物が出土している。この塚の脇の平坦地は後世整地されたため、遺構・遺物は検出していない。

D地区 靈山から南に向かう尾根の東側中腹で、海拔約六〇m、江戸時代初期の「極楽寺境内絵図」に描かれている仏法寺跡と考えられる南北約七〇m東西約二五mの平坦地である。この平坦地では、礎石の間隔が三mの礎石建物、掘立柱建物・柵列・雨落溝・池跡が確認された。池跡からは薄い板に写経した多量の柿経、火葬骨、かわらけ、茶臼が出土した。

池の大きさはおよそ東西六m南北八m、東辺と北辺が比較的直線で角が隅丸に近く、南辺と西辺は調査区外にはみ出しているがハート形の様な平面形と推察される。水際の海拔は五九・七四mで池中約一mまでは洲浜のように徐々に深くなるが、池の中央部は垂直に

岩盤が掘り込まれ、底部の海拔は五七・七一m、水深は二m程である。池というより水溜といった感がある。柿経はこの岩盤を穿った池跡の、池底と堆積土中層の二地点から出土した。池底のものは共に伴したかわらけから一三世紀後半、中層のものは同じく五輪塔から一四世紀後半から一五世紀前半の年代と推察されている。

仏法寺（靈山寺）は数多くあった極楽寺の子院の一つで、忍性が極楽寺に入山した文永四年（一二二七）以降、極楽寺の寺容が整えられていく中で建立されていったものと考えられている。「極楽寺境内絵図」の仏法寺には礎石建物や池が描かれており、この場所が仏法寺跡であることは間違いないと思われる。由比ヶ浜から材木座・和賀江島を一望できる境内は、忍性の浜の利権を彷彿とさせるに余りある眺望である。仏法寺境内の池（請雨池）には日蓮と忍性の雨乞い祈祷の伝承がある。また、この場所は元弘三年の鎌倉攻めのときに極楽寺切通しとともに守りの要となり、境内で激戦が行なわれた。明暦三年（一六五七）に焼亡した極楽寺に、仏法寺の建物を移したと伝えられている。

8 木簡の釈文・内容

- | | | |
|-----|---------------------|-----|
| (1) | 「所行安穩快善我從今日不復自隨心行不」 | 011 |
| (2) | 「生邪見憍慢瞋恚諸惡之心說是語已礼仏」 | 011 |

- | | | |
|------|---------------------|-----|
| (3) | 「而出仏告大衆於意云何妙莊嚴王豈異人」 | 011 |
| (4) | 「乎今華德菩薩是其淨德夫人今仏前光照」 | 011 |
| (5) | 「莊嚴相菩薩是哀愍妙莊嚴王及諸眷屬故」 | 011 |
| (6) | 「於彼中生其二子者今藥王菩薩藥上菩薩」 | 011 |
| (7) | 「是是藥王藥上菩薩成就如此諸大功德已」 | 011 |
| (8) | 「於無量百千万億諸仏所殖衆德本成就不」 | 011 |
| (9) | 「可思議諸善功德若有人識是二菩薩名字」 | 011 |
| (10) | 「者一切世間諸天人民亦應礼拝仏說是妙」 | 011 |
| (11) | 「莊嚴王本事品時八万四千人遠塵離垢於」 | 011 |
| (12) | 「諸法中得法眼淨」 | 011 |
| (13) | 「妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八」 | 011 |
| (14) | 「爾時普賢菩薩以自在神通力威德名聞与」 | 011 |
| (15) | 「大菩薩無量無辺不可称数從東方来所經」 | 011 |
- 柿経は約一〇〇〇点出土した。上部を圭頭状にしたもので、樹種



はヒノキとサワラである。法華経が連続して書かれており、ここでは一五点重なった状態で中層から出土したものを例示的に紹介する。これらは二・一五mm幅一・三mm厚さ〇・五mm程度で、同じ材から削り出された同一規格の材を利用している。法華経の妙莊嚴王本事品第二七の九二行(1)から一〇三行(12)、普賢菩薩勸發品第二八の一行(13)から三行(15)までを連続した一五点に一行一七文字を基本に書写している。



9 関係文献

鎌倉市教育委員会『五合榎遺跡(仏法寺跡)発掘調査報告書』(二〇〇三年)

(福田 誠)